



お泉水

題字 福井大学学長 清水英夫

№. 5 1975. 3. 31 福井県図書館協会報

福井市宝永3丁目11-16・県立図書館内 福井県図書館協会

図書館と電算機

副会長 清水 啓

我々が本という、一つの情報伝達の手段を考えだし、多くの人がそれを利用するようになった結果、情報源の蓄積場所として、自然発生的に図書館が生れてきたものだと思います。多くの人が情報を広く利用するようになると、渋滞なく情報が得られるように、自然に一つのルールができてくると考えられます。情報の質が多岐にわたり、その量も多くなり利用する人が多くなるにしたがって、いろいろな取決めが必要になってくるでしょう。

図書館の存立について、このような事情を思い起すわけです。図書館の業務は、利用者の要求を充分満たすように計画され、運用されなければなりません。図書館の設立の目的、その規模の大小、予算その他の条件により、業務の在り方には差があっても、図書の選定、受入れ、貸出し、返却等の基本的な業務は、どこでも行われているわけです。特殊なものは別として、一般の図書館で、これらの業務を含まないようなところはないでしょう。場合により、はっきり業務の区分のしていないところもあるでしょう。

ところで、我々個人の知識の集積と、それを基にしてなされる判断などの精神活動の過程を考えると、図書館の業務の流れと、きわめて似ている点が多いことに、気づきます。我々はいろいろな経験を重ねて、情報を集め、それを頭の中で分類し（これは個人や能力によって、差異はあっても、ある共通なものがあると思われます）、整理して記憶しておく。そして外からの刺戟を受けて、すばやく知識という情報を組合わせて、判断を下す。こ

ういう運び方の型は、図書館業務の流れと類を同じうするものだと考えられます。このような見方に立つと、図書館業務の流れと、人の知識の集積と、それを基にして行われる判断およびそれに続く行動の一連の所作のあいだには共通するものを感じ取ることができます。

電算機が人間の頭のはたらきの一部を代行するものとするれば、図書館業務の一部を電算機に肩代りさせようとするのは、自然な考え方だと思うわけです。

電算機には個性というものはないわけですから、電算機に創造的な仕事を要求するは無理でしょう。創造は個性から生れるものであり、個性は他によって作られるものではないと思います。しかし、電算機は、正しいプログラムと正しい命令の下では、驚くべき正確さと速さで仕事をしてくれるものです。したがって、電算機の適用範囲はきわめて広く、将来どこまで拡大するか想像もできません。

電算機の応用領域は非常に広いけれども、その中でも図書館業務は、その性質上電算機に最も適したものの一つであろうと思います。現行の図書館業務は非常に煩瑣で、手作業の部分が多く、停滞しがちですが、自然にかなり系統化されており、電算機用語に翻訳すれば、わりあい容易に移行し得る状態だと思えます。

私は図書館業務にかかわりをもつようになって、いっそうその感を深くいたしました。

雑文を草して感想を記した所以です。

(昭50. 3. 22)

図書館だより

移動図書活動と本館建設について

旧福井市立図書館は、明治40年6月旧福井藩主松平家から寄贈された由緒ある県下唯一の図書館であったが、昭和20年7月の福井空襲により建物及び資料の一部が灰燼に來してしまったことは誠に残念である。幸にして約2万冊の蔵書は疎開により焼失をまぬがれたため、一時県立図書館、学校、公民館等へ分散委託し、市体育館新築と同時に全巻を収納保管することになった。

これらの蔵書は、学問的文献として価値があり重要な資料が多く、県内外の識者をはじめ多数の市民から広く公開を要望されると共に、図書館建設の声が各方面から寄せられた。

市は、これらに応えるため図書館建設の前提として、



昭和37年7月より移動図書館車“フェニックス号”(ライトバン)により、16読書グループを対象に1セット25冊の移動図書の配本を開始して、読書活動の基礎づくりを図った。このため年を追うごとに市民の読書意欲が高まり、読書グループも現在では29グループが誕生している。また昭和44年10月より同グループ以外に、公民館、小・中学校への移動図書配本による館外奉仕活動と共に、藩校蔵書等と分類整理等を併せて開始した。

しかしながら、これでは市民の要望に応じきれず、また市街地及び同周辺地の市民は図書に接する機会も多いが、遠隔地ではこれに反比例するため、昭和48年8月マイクロバス型(トヨタ)の移動図書館車を購入、“あじさい号”と名づけ、1,400冊を積載して国見外6地区48ステーションを月1回巡回貸出しをはじめた。

1年7か月を経た今日、“あじさい号”は移動図書館車として、名実ともに地に着いた活躍をするに至った。館外奉仕活動は、現在次のようになっている。

あじさい号による貸出し 9地区59ステーション 月1回
読書グループ 29グループ 月1回

福井市図書整理室

公民館(希望により) 22 館 隔月1回
小中学校(希望により) 28 校 3か月1回
移動図書冊数 10,389冊

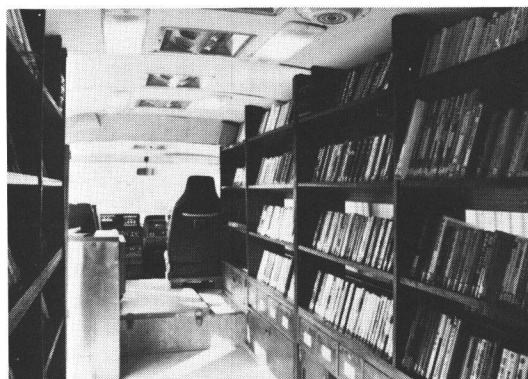
あじさい号の利用状況 (昭和50年2月末現在)

	登録者数	貸出冊数	利用者数	利用率
48年	589	4,127	1,888	2.18
49年	982	8,481	3,743	2.26

あじさい号に対するリクエストについては、出来得る限り応えているが、今後一段と努力する考えである。

移動図書館車の開始により、市民並に各方面からの図書館建設の声が一段と高まり、遂に昭和49・50年度において建設することになり、既にその設計も完了した。その間における各方面からのご協力に対し、ここに深く感謝申しあげる次第である。

新築される市立図書館は、第一線図書館に相応しく貸



出しを中心とした開架式の図書館で、利用する市民は誰でも普段着のまま気軽に入れる建物として前を通ると書架が見え、誘いこまれるような雰囲気、利用しやすく、楽しまれ、愛される図書館として内部の配置等が設計され、また身障者も自由に出入りできるよう配慮されている。

建設される場所は、福井市文京2丁目7番7号で、国鉄福井駅よりバスで5分(文京2丁目バス停前、藤島高校南)、静穏な第二種住居専用地域で、近くには大学1、高校3、中学1、小学校1が点在している。

建物(本館)鉄筋コンクリート3階建

建面積 1,340.21㎡ 延 3,475.3㎡

(附属建物)鉄筋コンクリート4階建

建面積 115.1㎡ 延 482.23㎡

総工費 582,500,000円

着工予定年月日 昭和50年4月

竣工予定年月日	昭和51年3月	
開館予定年月日	昭和51年6月	
開架図書	一般	40,000冊
	児童	7,000冊
	レファレンス	6,000冊
1階	一般閲覧室	
	児童閲覧室	
	老人閲覧室	
	盲人閲覧室	
	事務室	
	B・M車庫	
2階	レファレンス	
	行政資料室	
	学生閲覧室	

館長応接室
会議室
事務室
スタッフラウンジ
3層書庫
印刷室
軽食コーナー
展示ホール
3階
倉庫
機械室
電気室

なお、本館開館後は移動図書館車を2台とし、続いて分館を設置し、全市民に図書館サービスを実施する計画である。

高志高等学校図書館

新しい図書館が、お蔭様でこの程（備品などの納入が遅れたりしておいて、本格的利用は新しい年度から）でき上りました。私たちは、かねてより、情報化社会、生涯教育のあり方など、多様に変ぼうする中での新しい教育活動に対応できる機能的な図書館を夢に描いてきました。そんな夢がこの度の校舎全面改築を期に、にわかに工事に組み込まれて実現の運びになったわけで、限らない喜びを感じるとともに、学校教育の中心としての図書館の任務の重大さを改めて痛感している次第です。

私たちは、ともしれば自らを失い、活字ばなれしていかうとする若い人たちの、心寒い風潮にいどんで、高校の三年間に、ぜひ読んでおきたい本を、選んで解説紹介した小冊子「読書のしおり」を発行したり、そのコーナーを館内に特設したり、もっぱら生徒の、本との出逢いをはかってきました。

ところが、こうした私たちの願いと裏腹に、図書館の位置の悪さが生徒たちの、殊に一番利用されねばならない三年生の図書館利用を妨げている実態をいつも嘆いておりました。

前の図書館が建った頃の計画では、そのすぐ西側に本館が建つ予定の理想的な位置でした。しかしその後の計画変更で表門が北の大通りに面する逆の方に変更されて以来いつの間にもやらその機能を充分発揮できない至極まざい位置になってしまったわけで、今、新しい図書館が、どの教室からも眺められる位置にこうして堂々と建っているのを見ると、全く夢のような感じがします。

では新しい図書館を、ご紹介してみましよう。図書館の機能でもっとも重要なことはまず第一に利用しやすい位置にあるか、どうかということですが、この新図書館は門の形の校舎群を真向に受けて建てられ、しかも公費建築物としては例外的な独立の鉄筋二階建て、新館の二階から（将来は本館の二階からも）も渡り廊下を通じ



て入館できるようになっています。グラウンドなどからは遠く離れ、校地内の一番閑静な所で、まさに図書館として最適な位置を占めています。

さて館内に入りますと、床は明るく感じのいい色のアスタイル張りになっております。まずカウンターがあり、その前のホールは、新聞や雑誌などを読んだり、くつろいだ気分で行われるブラウジングコーナーになってい、カウンターの奥は事務室、更にその奥は広い書庫になっています。さて第一閲覧室に入るわけですが、それは、廊下の騒音やホールの気軽な雑談と、そのふんいきを立ち切る硝子張りのパーテーションの奥にあります。ここは、全く閑静で明るく、やがて整備される中庭の草花に目を休め、ほんとうにゆったりと、心静かな読書を楽しめるようになっています。

二階の第二閲覧室、ここは今までの図書館になかったスペースで、これからの多様な教育活動に応じて使用されるスペースです。ホームルームなどの集団読書の場でもあり、また普通の教室ではできなかった図書館の資料を利用してのグループ毎の討議、研究といったグループ学習の場としても大いに利用されるでしょう。その場合は「静かに本を読むところ」といった今までの図書館のイメージとちがって、いわゆる“voice of work”に満

ちた、それこそ活気のある室となることの方がむしろ期待されるでしょう。しかし、この室にはカセットコーダーによる英語などの独習もできるキャレル（個人学習席）机も北側の窓ぎわに並べられており、放課後はまた一変して、静かな静かな自習室になるはずで。そして今まで汽車通学などで、それぞれの寒々とした教室に残っていた者たちは、皆々の室でゆっくり自習ができ、大変喜ばれています。

なお二階には、職員の研修室（読書相談の室をも兼ねます）や学校の歴史などの貴重な資料を保存する資料室が設けられています。またこの第二閲覧室の西側屋上には、ちょっとした庭園になっていて、屋外での読書や談

話を楽しめるようになっていきます。

以上が新しいわか校の図書館のあらましですが、ちょうど、前の図書館が18年前、県下の高校にさきがけて鉄筋の独立図書館として建設されたときと同じように、またまた、新しい機能を備えた一つのモデル図書館としてデビューすることになったわけです。

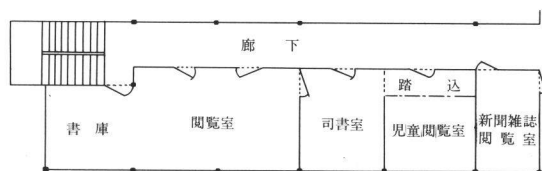
今後は、資料の充実、整備などを中心に、ほんとうに学校のなかに、しっかり根を下ろした生き生きとした図書館づくりに一層はげみたいと思っています。

これからは新しい創造的な授業がこの図書館で次々と展開され、生徒もまた一冊でも多くの図書とふれあってゆたかな人間形成をはかって行くことでしょう。

図書館の概要

今庄町立図書館

○図書館の平面図



○図書館協議会委員

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. 町内小中学校代表 | 各1名 |
| 2. 町PTA連合会長・町連合青年団長 | 各1名 |
| 3. 社会教育委員 | 2名 |
| 4. 公民館運営審議会委員 | 2名 |
| 5. 学識経験者 | 2名 |
| 計 | 10名 |

○職員

館長（兼務）、司書、兼務職員、計3名

○竣工

昭和50年11月5日

○図書館の現状

右表の通り。

1. 蔵書数

	一般	児童	計
購入図書	41	296	337
寄贈図書	93	—	93
配本図書	366	39	405
赤田文庫	776	—	776

2. 入館者数

	一般		児童		計
	男	女	男	女	
11月	7	2	—	4	13
12月	11	6	—	—	17
1月	27	11	—	1	39
2月	93	31	212	199	535

3. 館外貸出し

	一般		学生		児童		計
	男	女	男	女	男	女	
11月	1	—	—	—	—	4	5
12月	13	9	—	—	—	3	25
1月	14	2	—	1	—	11	28
2月	14	11	—	2	82	105	214

○今後をめざして

1. 今庄町は部落が広範に散在しているので、町民にひろく利用してもらうための対策として巡回、その他の方法を考えなければならない。
2. 読書会の育成をはかり、読書層をひろげなければならない。
3. 蔵書数の拡充をはからなければならない。
4. 昭和49年度から学校図書館の充実のため児童・生徒1人当り360円の町費補助を実施。
5. 開館して、日も浅いので歩みも施設も今後の努力にまたなければならない。
6. 寄贈書—山本周五郎文学全集と研究書37巻

福井県図書館協会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 この会は福井県図書館協会と称する。

(組織)

第2条 この会は次に掲げるものをもって組織する。
(1) 公共図書館、大学図書館(工業高校専門学校 農業短期大学校を含む)公民館および図書館同種施設ならびに学校図書館協議会
2. 前項の職員および個人でこの会の目的に賛同するもの。

第2章 目的および事業

(目的)

第3条 この会は福井県内の図書館活動の振興を図り、文化の進展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- (1) 図書館事業に関する調査研究
- (2) 図書館活動に関する講演会、講習会、展示会等の開催
- (3) 資料の収集および情報の交換
- (4) 図書および図書館利用の選択購入のあっせん
- (5) 読書の普及および指導
- (6) 図書館職員の研究、研修会の開催
- (7) 機関誌、その他印刷物の刊行
- (8) その他、この会の目的を達成するに必要な事業

第3章 役 員

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
 - (2) 副会長 3名
 - (3) 理 事 若干名
 - (4) 監 事 3名
2. 会長および副会長は、理事の互選とする。
3. 理事、監事は総会において選出する。
4. 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。

(職務権限)

第6条 会長は会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し会長に事故のある時はその職務を行なう。
3. 理事は、重要事項を審議する。
4. 監事は会計を監査する。

第4章 会 議

(会議)

第7条 この会の会議は総会および理事会とする。

(総会)

第6条 総会は会長が招集する。
2. 総会は構成員の3分の1以上の出席で成立する。
3. 議事の成立は出席者の過半数の同意をもって決め、可否同数のときは議長が決めるところによる。
4. 定期総会は毎年1回開催する。ただし会長

が必要と認めたときは臨時総会を開催することができる。

5. 総会の権限は次のとおりとする。

- (1) 主要事業の決定
- (2) 予算の決定および決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) その他、この会の目的の達成に必要なかつ重要な事項

(理事会)

第9条 理事会は会長、副会長および理事をもって構成する。

2. 理事会は会長が必要と認めたとき、または理事の3分の1以上の要求のあるとき会長が招集する。
3. 理事会は構成員の過半数の出席で成立する
4. 理事会は次のことを審議する。

- (1) 総会に提出する議案
- (2) 総会から委任される事項
- (3) その他の必要事項

5. 総会を開催することができないと認められた場合には、理事会は総会に代ってその権限を行なう。ただし、次期総会において承認を得るものとする。

第5章 顧問および参与

(顧問)

第10条 この会に顧問を置くことができる。

2. 顧問は理事会の承認を得て会長が推薦し会長の諮問に応ずる。

(参与)

第11条 この会に参与を置くことができる。

2. 参与は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
3. 参与は理事会に出席して意見を述べることができる。

第6章 会 計

(経費)

第12条 この会の経費は次のものをもってあてる。

- (1) 負担金
 - (2) 会 費
 - (3) 県費補助金
 - (4) その他の収入
2. 負担金、会費については別に定める。

(会計年度)

第13条 この会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第7章 事 務 局

(事務局)

第14条 この会の事務局は、福井県立図書館内に置く

2. 事務局は会長の統括のもとに事務を処理する。
3. 事務局に常任幹事および幹事若干名を置き会長が任命または委嘱する。

付 則

1. この規約は昭和45年10月30日から施行する。
2. 昭和45年3月16日設定の福井県図書館協会会則は廃止する。

福井県図書館協会の歩み

昭和49年 (1974)

- 5. 11 第12回福井県本を読むひとたちの集い (共催 三国町立図書館)
講演：山本和夫氏
「人生と文学—親の問題・子の問題—」
- 5. 22 理事会・総会 (福井県職員会館)
- 7. 11 } 東海・北陸地区読書普及活動研究集会 (青少年センター)
12 } 講演：高見晶子氏「夫、高見順を語る」
- 10. 28 東海・北陸地区地方講習会 (兼 昭和49年度県下図書館関係職員研修会) (労働福祉会館)

- 11. 18 図書館運営研究会 (福井県立図書館)
- 11. 28 理事会 (福井県職員会館)

昭和50年 (1975)

- 1. 10 第18回読書感想文県下コンクール審査委員会 (福井県立図書館)
- 1. 26 第4回福井県図書館活動研究大会 (県民会館)
講演：上田正昭氏「古代文化の再発見」
3分科会に別れて実施
第18回読書感想文県下コンクール表彰式
- 3. 6 第2回図書館運営研究会
- 3. 31 協会報第5号発行

福井県図書館協会役員名簿

会 長	福井県立図書館長	小 林	郁 夫
副 会 長	福井大学附属図書館長	清 水	啓 啓
	福井県学校図書館協議会長	岩 崎	達 雄
	武生市立図書館長	瓜 生	保 利
理 事	三国町立図書館長	徳 照	寿 天 麿
	福井市図書整理室主幹	村 上	慶 三
	福井県立図書館副館長	印 牧	邦 雄
	三方町立図書館長	河 原	繁 太 郎
	敦賀市立図書館長	高 城	一 郎
	小浜市立図書館長	加 納	穎 一 郎
	福井工業高等専門学校事務部長	田 中	敬 次
	今立町立花筐図書館長	市 橋	甚 助
	福井大学附属図書館事務長	瓜 生	守 邦
	福井県学校図書館協議会事務局長	中 野	信 夫
	福井工業大学附属図書館長	中 村	幸 造
	福井県農業短期大学校事務局長	木 谷	寿 蔵
	福井県学校図書館協議会副会長	大 石	甚 昇
	福井県学校図書館協議会副会長	松 嶋	喜 一
	鯖江公民館長	若 泉	喜 実
監 事	大野公民館長	福 嶋	一 来
	仁愛女子短期大学附属図書館長	福 原	本 清
	福井県議会図書室 調査課長	山 本	武 九 郎
幹 事	福井大学附属図書館 管理係長	武 内	淳 道 雄
	福井大学附属図書館 整理係長	靈 河	法 祥
	福井大学附属図書館 運用係長	平 泉	田 武 男
	福井県立図書館 総務課長	山 田	部 英 一
常任幹事	福井県立図書館 振興課長	広 井	口 昌 保
	福井県立図書館	井 口	三 上 須 美
	福井県立図書館	天 谷	隆 治
	福井県立図書館	出 雲	俊 樹